

石井 由里 (いしい・ゆり) 先生

ユニバーサルミュージック合同会社 ユニバーサル
ストラテジック マーケティング ジャパン
マネージング・ディレクター

- ・1984年 津田塾大学学芸学部英文学科卒業
- ・1984年 東芝EMI株式会社（現 EMI ミュージック）入社
社長室秘書として会長・専務の秘書業務を担当。
- ・1985年 洋楽制作本部へ異動。
洋楽コンピレーション企画制作担当。
- ・1986年 EMIレーベル担当ディレクター。
- ・1993年 Virginレーベル担当ディレクター、及び制作課長。
- ・1998年 邦楽制作本部へ異動。
制作課長及び新人アーティストの発掘・制作担当。
- ・2003年 ユニバーサル ミュージック株式会社入社
（現 ユニバーサル ミュージック合同会社）
UM3（現在のストラテジックマーケティング）で
洋楽コンピレーション企画の制作を担当。
- ・2005年 UM3カタログ編成部マネージャー。
- ・2005年 ユニバーサルインターナショナルへ異動。（宣伝本部長）
- ・2008年 ユニバーサルストラテジックマーケティングジャパン マネージングディレクター就任。



《講義概要》

ユニバーサルミュージック合同会社ユニバーサルストラテジックマーケティングジャパンのマネージング・ディレクターとして音楽業界の第一線で活躍する石井由里氏が、音楽業界の実態やその仕事内容について講義を行った。

講義ではまず、ユニバーサルミュージックについての紹介 VTR を上映し、組織の概要や事業内容について分かりやすく解説した。多様化するニーズに応じ、「レコード会社」から、様々なビジネスを展開させていく「音楽サービス企業」へと進化している実態を説明した。

また、音楽業界に携わるきっかけや現在の仕事に至るまでの経緯について、音楽業界の変遷を背景に、裏話等を交えて紹介。夢に向かって自分を信じて突き進むことの大切さを示すとともに、洋楽・邦楽制作の実態やそこに込められた思いを伝えた。信念を持って粘り強く継続し、夢を実現していく行動力に学生は感銘を受け、人生において大切な考え方を学んだ。

最後には、「音楽産業に興味のある人は是非チャレンジしてほしい」「憧れてもらえる産業にしていきたい」とメッセージを残し、学生に希望を与えた。

《受講生の感想》

●自分の“好き”を仕事にすることは決して不可能ではないということを学べたことは、就活を経験している私にとってとてもプラスになりました。また、同じ音楽でも洋楽と邦楽の違いがたくさんあることも驚きました。それぞれの売り出し方、苦勞、やりがいなど、どちらにおいても成功を取めることはとても難しいことだと感じました。

立命館大学・映像学部・4回生

●思い込みと勘違いを大切に希望を持ち続けて突き進んで欲しいという言葉がとても心に残りました。音楽業界というのは、アーティストとしてではなくても厳しい世界だと思います。強い意志、信念を持って歩んでこられた先生の言葉だからこそ響いてくるものがありました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●今と20年前との音楽業界の実情はだいぶ違うということが分かりましたが、入社からやってきた業務など自ら切り開いていく力のすごさと積極性に驚きました。信念や希望は捨ててはいけないと改めて感じました。

立命館大学・法学部・4回生

●「どうすれば音楽関係の仕事に就けるのか」「どうやって音楽関係の仕事に就いたのか」という話をこの講義で聞きたいと思っていたので、ユニバーサルミュージックの構造だけでなく、自らの経歴を詳しくお話していただき勉強になりました。女性の私にも音楽の仕事ができるという希望が持てました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●女性の就職が厳しい時代の中で自分の信念を貫いて就職に繋げた根性や努力に感心しました。これから就活する私にとってはとても刺激になりました。レコード会社が変化している現状もよく知れました。音楽サービス企業として音楽の可能性を発掘していく仕事はとても面白そうだなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●チャリティーのお話をされていましたが、災害があったとき、いつも力を発揮してきたのは音楽だと思いました。やはり音楽は人の心を動かす力のあるものなのだと石井先生のお話を聞いて思いました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

